令和５年度　第１回釧路定住自立圏共生ビジョン懇談会
議事要旨

日　　時　令和５年９月１日（金）
　　午前１０時００分～午後１１時００分
場　　所　釧路市役所　本庁舎４階　会議室
担当課係　都市経営課企画担当

○：事務局　／　●：構成員

１　開会

２　釧路市総合政策部長　挨拶

３　構成員紹介

４　議事
（１）定住自立圏の概要について

○事務局から説明（資料１）

●質疑応答なし

（２）令和４年度事業実績及び令和５年度事業予定一覧について

○事務局より説明（資料２、３、４）

●医師の高齢化が進み、安定した医療の提供が難しくなっている。釧路市で開業する医師を確保するため、今年度の４月より釧路市と医師会で開業医助成金（釧路市診療所等開設助成金）の制度を設けた。特に精神科医療がひっ迫しており、受診するにも３・４か月待ちの状況が続いている。小児科については、医師の平均年齢が７０歳に差し迫っており、医師不足により高齢になっても診療をやめられない状況である。開業医助成金は、医師会だけではなく、釧路市の東京事務所に協力をお願いするなどして地道にＰＲを続けていく。
医師の高齢化に伴い、在宅当番も厳しい状況である。うまく運用している苫小牧市等に視察に行き、医師会としても同じように進めていきたい。
看護師についても人材が不足している。子供たちが将来看護師になりたいという希望が持てるよう改めてよろしくお願いしたい。

○地域の医療は釧路管内全体で守る必要があり、精神科や小児科の問題も政策として議論を進めている。一方で地域を見ると、後期高齢者の増加に伴い、救急搬送の件数が近年増えており、医療機関の負担が大きくなっている。看護学校の学生が少ないという課題も含めて、医師会・行政・地域の方々で連携して医療体制を構築していきたいと考えている。

●各自治体から医師派遣はどれくらいあるのか。

●地域医療支援病院や社会医療法人は、他の自治体から要請があれば派遣するのが大前提だが、派遣する医師がいないという厳しい状況である。

●観光について、釧路だけで見ると去年の観光客入込数は、コロナ前の８割まで回復している。これからアドベンチャートラベル・ワールドサミットが控えており、欧米の富裕層を狙った案内をしているが、道東観光の訳７割は道内からの観光客という実態があるため、そのあたりも考えていく必要がある。

○今年はメディア関係者や海外の富裕層が集まるサミットが札幌で行われる。その後、釧路地域にコース設定をし、メディアの方々にツアーを体験していただく。釧路市だけでなく、阿寒や弟子屈を含めたツアーが想定されており、目標とするのは付加価値を高めてサービスを向上させることである。観光客全般でいうと、道内からの観光客にも２泊・３泊していただける取組みをしていかなければならない。その中の一つがサービス自体の向上である。また、観光事業者として生計を立てられるように、海外の富裕層も取り込んで収益を得るための工夫をしていかなければならない。釧路管内全体の自然環境の良さを前面に出しながら、食や北海道特有のアイヌ文化を打ち出していく。これは地域を挙げてやっていかなければならない問題である。

（３）釧路定住自立圏共生ビジョン（素案）について

○事務局から説明（資料４）

●質疑応答なし

５　その他

（１）令和５年度釧路定住自立圏スケジュールについて

〇事務局から令和５年度釧路定住自立圏スケジュールについて説明

●質疑応答なし

６　閉会